

平成23年度 ほくぎん若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
鈴木晃志郎	人文学部・准教授		500,000 円
研究課題名	原発の温排水をめぐる地域の社会関係の解明		
研究の概要	<p>[研究開始当初の背景, 研究の目的, 研究の方法等について記入]</p> <p>本助成の採択直後、東日本大震災および福島第一原発事故が発生し、調査対象である浜岡原発の停止という不測の事態に見まわれた。原発停止は、温排水の供給停止に直結し、本研究も大きな影響を受けた。このため、現状分析よりも、資料分析や聞き取りを通じた社会関係の成立プロセス解明に重点を置くとともに、概念装置としての NIMBY 研究の解題を進めた。前者については、温排水を使った養殖事業をとりまくステークホルダーの相互関係がある程度明らかになったが、さらに詳細な分析が必要である。また、後者に関しては定見を得ることができ、成果を論文の形で社会還元することができた。</p>		
研究の成果	<p>[研究成果について具体的に記入]</p> <p>二度に渡って現地調査を実施し、関連組織・団体などから聞き取り調査を実施するとともに、図書館等で資料収集をおこなった。これにより、温排水をめぐる社会関係について考察する上で、2004 年に行われた町村合併が重要な意味を持つことが分かってきたが、この点については今後さらに調査が必要である。また、原子力発電所の立地問題を考えるうえで避けて通れないのが NIMBY(≒迷惑施設問題)であることから、NIMBY 研究の動向を文献研究によって展望し、その成果を二件の学会発表、二件の論文にまとめて公表した(下記参照)。ただし、温排水をめぐる社会関係は複雑であり、期間内には十分に解明できなかったため、なお調査を進める予定である。</p>		
研究成果発表状況	<p>[雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成したWebページ, 産業財産権(特許権等)の出願・取得状況について記入]</p> <p>1) 鈴木晃志郎 2011. NIMBY 研究の動向と課題. 日本観光研究学会全国大会論文集 26: 17-20.</p> <p>2) 鈴木晃志郎 2012. ただ乗りしているやつは誰だ?. 進化経済学論集 16: B5-2.</p>		
経費の執行状況	区分	執行額(円)	備考
	旅費	256,694	
	通信費	26,000	
	文献複写・購入費	13,030	
	学会関係費	20,000	
	物品費	182,166	
	光熱水料	2,110	